



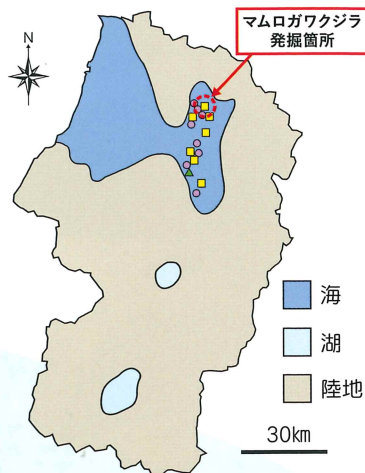
山形県真室川町
真室川町立歴史民俗資料館

海がない真室川町でなぜクジラなの？

はるか昔、日本列島はユーラシア大陸の一部でした。ところが前期中新世（2000 万年前）頃から、大陸の東縁部が徐々に大陸から分離して、中期中新世（1500 万年前）頃に日本海が誕生するとともに、日本列島が形成されました。

真室川町が位置する新庄盆地もその昔は海底だったため、山間地帯の本町でもクジラの化石が発見されました。

600～400万年前（後期中新世～前期鮮新世）
野口層～中渡層堆積時の古地理図



▲ハクジラ化石 ■ヒゲクジラ化石 ●クジラ類化石
山形の古環境と鯨化石の産地（2004 長澤一雄氏）より

「mamlogawakujira」って何？

「mamlogawakujira」とは1992～1994年に本町大沢（小川内地区）の道路工事現場で発見されたヒゲクジラのセミクジラ科とナガスクジラ科、ハクジラのマッコウクジラ科などの総称です。大きなもので体長約18mと推定され、クジラの化石では当時最大級だったといわれています。下顎骨（かがくこつ）で7個体、前上顎骨（ぜんじょうがくこつ）で6個体、肋骨（ろっこつ）で9個体が識別できるとされ、これほど多くの化石が1か所から見つかったのは国内では異例といわれています。

化石群が発掘されたのは約600万年前（新生代新第三紀中新世）の地層（野口層）で、発掘現場の化石の配列から、クジラが死んだ場所から、遺体が海底の地滑りなどにより砂や泥と一緒に土石流となって流され、堆積したものと考えられています。これらのクジラ化石は山形県立博物館（山形市霞城公園）に保管されています。

発掘された化石の一部



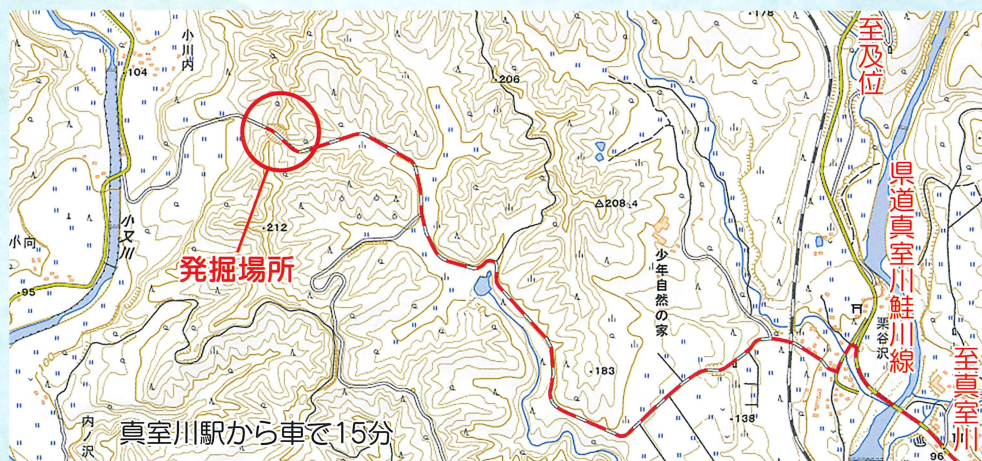
ヒゲクジラ類 つい骨（町立歴史民俗資料館所蔵）



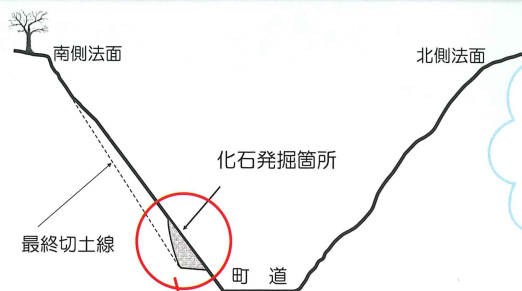
ナガスクジラ科 左下顎骨
（山形県立博物館所蔵）

大型ハクジラ類 とう骨
（山形県立博物館所蔵）

ナガスクジラ科 尺骨
（山形県立博物館所蔵）



化石が埋もれていた様子



こんなふうに
土の中に
埋もれて
いたんだね。



©whale artist arata hitom
×Mamurogawa Junior High School



1994年の第2次発掘で現れた大型下顎骨（ナガスクジラ科）

大型の肋骨化石

発行／真室川町教育委員会

〒999-5312 山形県最上郡真室川町大字新町124-4

TEL 0233-62-2223/FAX 0233-62-2731

真室川町立歴史民俗資料館

〒999-5312 山形県最上郡真室川町大字新町233-1

TEL・FAX 0233-62-3511

E-mail siryokan@town.mamurogawa.yamagata.jp

協力／山形県立博物館

【関連企画展：「おかえりなさい マムロガワクジラ展」令和5年7月19日～9月24日】